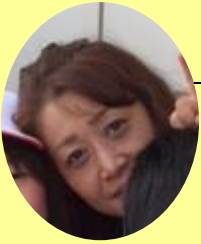


The News Letter of Human Science and Development

Human Science and Development 研究会

〒321-395 栃木県宇都宮市竹下町 908 番地 作新学院大学 田所研究室内
E-mail:kachejinkai@sakushin-u.ac.jp URL:http://www.jahsd.com



「未来への光」

HSD 研究会 運営委員 菊池真巳

HSD 研究会が会として発足され半年が過ぎようとしている。この半年が長かったのか、短かったのか？会員それぞれの感覚や認知によって印象にも違いはあるものと考え、それはそれで興味深いものであるが、私にとっては「まだ・・・」といった感覚である。そして「まだ・・・」と思うにも様々な理由がある。端的に言えば、それは、カウンセリングを学んできた過程と自分自身のこだわりと深い関係があると思っている。

思えばカウンセリングを学び出した当時の私は、「2 年間は自分のために理論を学び、後の 2 年間は人の役に立つために実践を学べ」とおっしゃった A 先生の言葉を胸に進んできた。あっという間に 4 年が過ぎ、認定試験に挑もうかと考えた頃、B 先生の「中途半端ならクライアントにとって大迷惑。そんな人はカウンセラーとはいえない」という言葉が心に突き刺さり、その年に試験を受けることを断念した。自分の心の内に迷いがあつたからである。最終的には信頼する友に支えられ学習を継続し、「カウンセラーとして本物になるために実践は必要不可欠。その実践を行い重ねるために認定は取りなさい」という C 先生の教えに導かれ、日本カウンセリング学会認定を取得したもの、以来ずっと「本物のカウンセリングとは何か？カウンセラーとして本物になるとはどういうことか？」それが私にとって最も深いテーマとなった。その探求は、今をもってなお継続中だ。

そんな私に今年、希望の光が現れた。それが HSD 研究会である。カウンセリングを学ぶ人ならば、誰でも 1 度や 2 度ならず、学べば学ぶほど「怖さ」を感じることはあるのではないだろうか。現場でどれだけ実践を積んだか？本当の現場でしっかり人と関わる実践を積むことが本当の意味で学習になることと理解しつつも、本当の現場での失敗は許されるのか？心ならずも相手を傷つけてしまったとしたら、どう責任を取るのか？何千・何万の本を読んでも、教室でどれだけスキルトレーニングをしても、残念ながら望む答えはそこにはない。なぜなら歴史や文化的・社会的な背景のなかで人々は進化し、そうしたなか人間を対象とする学問そのものも、それに伴い進化していくものと考えからである。ならばこの先自分で研究していくしかない。

それと同時に「怖さ」を考えたとき、会主催のロールプレイング研修会に触れると、自分自身を追求することも大切だと思える。ロールのなかでの自分の言動を振り返る機会があると、癖が理解できる。癖と向き合うことで自分の感情の動きに気づくこともあれば、D 先生の教えである「他者を見ている自分(どのように他者を捉えているのか)」に気づくこともある。真の自分を見つめ、向き合い、理解していくことが相手を大事にし、自分を大事にしつつ「カウンセラー」と「私(自分自身)」を区別することにつながるのではないかと考えると、それが本当の現場で実践をする前の心構えとなり、「怖さ」とも折り合いをつけられるようになることも事実ではないだろうか。では、科学的にはどうか？

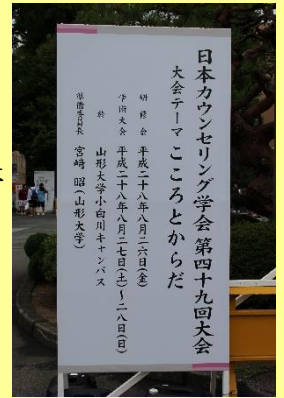
・・・ここまでくると、自分でも笑ってしまう。かんがえれば考えるほど切りがない。

ただ HSD 研究会には、それを正面から受け止めてくれる先生方がいる。特にどんな疑問をもって質問をしても、誠実に一緒に向き合い、答えに導いてくださる D 先生、E 先生には常に感謝が絶えない。だからこそ、今ここで心から会員の皆様へ...この会は「会員一人一人自らが主人公である！」それを忘れないでほしい。そして私は妥協することなく、好奇心のままに学習、研究を重ね、まずは自分自身が納得できるカウンセリングの「本物」へと近づく探求者の主人公として、前へ前へ進みたいと思う。

経過報告はいずれ改めて...

日本カウンセリング学会大会報告

2016年8月26日～28日の3日間、日本カウンセリング学会第49回大会「こころとからだ」が山形にて行われました。HSD研究会では、田所先生企画による自主シンポジウムをはじめ、4名の会員が事例研究発表、ポスター発表にて参加されました。それぞれがカウンセリングについて考える、非常に濃厚で充実した3日間であったと思います。田所事務局長、また、発表された会員から感想をいただきました。



自主企画シンポジウム

『カウンセリングの質を高めるカウンセラー教育プログラム

—“ カウンセリングコンピテンス” の概念を考える— 田所撰寿

研究会発足1年目ですが、多くの会員の皆さんが発表され、とても有意義な大会でした。ただ残念なことに学会そのものはそれほど盛り上がりおらず、寂しい気持ちもあります。自主シンポジウムは今年で5年連続で行っております。この研究会の目的を体現するような内容です。シンポジストの先生方や指定討論の日野宜千先生と有意義な意見交換ができ、これからの研究に活かしていきたいと考えております。

事例研究発表

『思春期事例における ASD 特性と母子関係の視点

—摂食障害の症状を呈した不登校の女子中学生との面接過程を通して— 高木憲子

発表での自分の目標は、カウンセラーとして誠実な態度で、ケースについて過不足なく事実を伝える、ということでした。座長や思いがけず盛況だったフロアから色々なご質問をいただき、本事例への関心の高さをありがたいと思うとともに、自身の臨床を振り返る貴重な機会をいただきました。

ポスター発表

『カウンセラートレーニングプログラムの評価に関する研究II —1年、2年、3年間のトレーニングによる変化—』

高野正美

この度はポスター発表に参加させて頂きありがとうございました。分散分析や、初トライとなる KH-Coder による論文を原稿のメ切りぎりで纏め上げ、皆さんにお披露目できましたことは、達成感と共に楽しい思い出となり大変うれしく思います。田所先生、感謝致します。

『ひきこもり支援における就労へのプロセスに関する研究 —サポステを利用する若者への質的調査による検討—』

小池美嘉

学会初参加での発表はとても緊張しましたが、自分の研究に興味を持ってもらえる喜びを知る、貴重な経験となりました。臨床家として日々研究を積み重ねていくこと、研究に熱意を持つことの意味を改めて学びました。機会をくださった先生に感謝致します。

『カウンセラー養成におけるトレーニングプロセスに関する研究 —自験例によるカウンセリングのイメージ及びスキル獲得の変化に焦点を当て—』

高野氣和加

発表には「心理学に毛が生えた程度の私が生えて良いの!?!」という思いと「先生が言い始めたことだし、当たって砕けろ!」と開き直る気持ちで臨みました。発表は楽しく、臨床を考える機会となり、優しさで包まれていました。関わってくださる方々に感謝の思いを忘れず、これからも頑張りたいです。

第2回ロール合宿開催



2016年8月19日～22日の3泊4日で第2回ロール・プレイで学ぶカウンセリング研究会が大田原市ふれあいの丘で行われました。非会員も含めて16名が参加し、充実した研修が行われました。参加された会員2名から合宿での感想をいただきました。

会員 高橋亜矢子

RP合宿は「質のよいカウンセラーになるための修行の場」だと思っています。観察者等、第三者が多数いるなかで模擬面接を経験する最大のメリットは、振り返りが出来ることと、逐語を起こせることです。自分(CO)はCL(役)に対して何をしたのか、どうすれば良かったか等、その場でCLに質問することができ、また観察者の方々から多様な意見を頂くことで、自分に足りないものは何か等に気付くことができます。逐語を起こし、読み返すことで、さらに自分の癖(修正すべき点)についても知ることが出来ます。ハードなトレーニングですが、田所先生、松本先生のもとで修行を積み、生きているあいだに、質のよいカウンセラーとして人の役に立てる日が来ればいいな。と思っています。講義では、時代の変化に伴う“法律”の改訂などに目を向けることの必要性を学び、辞書や様々な書物に触れることの大切さを改めて実感しました。懇親会では、いつもとは違う先生方の“お姿&お顔”を拝見することができ、とても楽しかったです。有り難うございました。

会員 鈴木悦子

私は普段全く相談場面にいないので、3月にTCAが終了し、日常からカウンセリングの文字が消えてしまうことがとても寂しく感じていました。実力的に全く足りてないのを自覚しつつどうしても研修したくて、参加させていただきました。

参加してみると、普段から相談に関わっている方々がたくさん参加されていて、いろんなロールプレイを見たり考えたりすることで、大変勉強になりました。県外の方、医療関係の方もいらっしやって、大変刺激を受けました。また学生さんも参加されていて、その新鮮な洞察力、真剣さは大変勉強になりました。もちろんTCAと一緒に田所先生に2年間教えていただいた仲間とも再会できました。

研修中は、「みなさん現場で着々と実力を付け、発揮していらっしやる中で私は・・・」と落ち込むことしきりでしたが、ロールプレイを通して、自分とじっくり向き合うことができ本当に貴重な時間を過ごすことができまあした。松本先生 田所先生 そして企画してくださった皆様、本当にありがとうございました。ほんのちょびっとだけ作新の甲子園決勝戦をTV観戦したのもとてもよい思い出です。

学生たちの素朴な疑問・感想・思いつき

《このコーナーではカウンセラーを目指している大学生や大学院生からみたカウンセリングや心理学に対する素朴な疑問や感想をあげてもらおうと思います。》

7月のとある授業以来、「老年期のクライアントとどう向き合うか」と言うことがテーマとして突きつけられているように感じている。というも、その授業で「懐かしさ出会い療法」という療法を学んで以降、老年期のクライアントがテーマである話に触れる機会が多いのだ。まして今期の授業単位として「老年期の臨床心理」を取っているのではなおさらである。老年期の方は、私のような若輩者には想像もつかないような人生を歩んでこられている。それをまさに今、私にその当時の実感を持って話そうとしてくださっている。その重みを、私は受け止めることができるだろうか？そう考えると、とても自信などない。しかしこの先もこの道を進んでいくつもりならば、「自信がないから」などと逃げることは許されないだろう。だからと言って中途半端に話を聞かせて頂くぐらいなら、今の私にできる全力をもって受け止めた。い。まだまだ学びの途中であるが、今期が終わる頃には、1つの答えが出せていたらと思っている。(h.r.r)

事務局より

《第1回総会と講演会の報告》

2016年5月8日（日）作新学院大学にて、第1回 Human Science and Development 研究会の総会および講演会が開かれました。

2016年5月8日現在で、正会員47名、学生会員2名、賛助会員1名、合計50名の会員であり、当日は30名が参加し、総会が行われました。役員選出から予算案までの議案が検討され、了承されました。部門として「青年部」という名前について質疑があがり、再検討することとなりました。

その後松本代表による「社会で役に立つカウンセラーになるために」というタイトルの講演会が行われ、非会員と合わせて37名が参加されました。さらに夕刻より懇親会が行われ、約20名の会員が親睦を深めました。



第1回総会の様子



親睦会の最後の記念写真

この度、無事ニュースレターを発行できる運びとなり、会員の皆様はじめ多くの会の活動に協力してくださった皆様に感謝申し上げます。HSD研究会が本格的に始動して半年が過ぎました。簡単に本会の活動についてまとめてみました。

- 松本代表が日本カウンセリング学会の理事に選出され、さらには松本代表、田所事務局長が認定カウンセラー会の理事に選出されました。
- 会員主導の輪読会が企画され、栃木地区では6回、東京地区では3回の会が行われ、それぞれ8名～15名ほどの会員が参加されています。
- 第2回ロール合宿が8月、例年と同じ大田原の「ふれあいの丘」で開催され、3泊4日の研修会が開かれました。
- 日本カウンセリング学会が8月末に山形大学で開催され、会員からは事例研究1本、ポスター発表4本、自主シンポジウム1本の発表が行われました。

今後とも会員の皆様が主人公となる活動を行っていきたいと思いますので、ご意見やアイデアを事務局までお寄せください。

Human Science and Development 研究会

〒321-395 栃木県宇都宮市竹下町 908 番地 作新学院大学 田所研究室内

E-mail: kachejinkai@sakushin-u.ac.jp URL: <http://www.jahsd.com>

※ホームページやメーリングリストも是非ご利用ください！